



入試広報課
TEL : 0584-77-3510
FAX : 0584-77-3512
E-mail: nyuushi@gku.ac.jp



ハジマリ、

地域と、ともに。
企業と、ともに。
人と、ともに。

岐阜協立大学 GIFU KYORITSU UNIVERSITY

ともに立ち、向かおう。 ここがあなたの起点。

どこに向かえばいいかわからない？

大丈夫、歩き出せばきっと見えてくる。

まずは、知ることだ。

知識はあなたの世界を広げ、小さな疑問を生む。

その疑問こそが、学びの「ハジマリ」。

あとは仲間とともに動けばいい。

失敗も成功も、悩みも喜びも、

すべてが積み重なって未来の笑顔になるから。

協立フラッグシップ

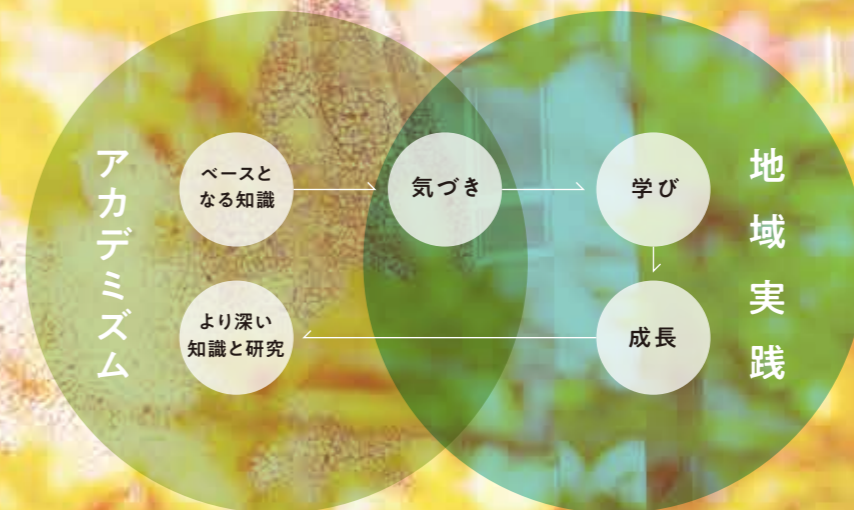
共鳴する学びを。

すべての学びは、実践で発揮されなければなりません。

だから岐阜協立大学は、その機会を豊富に提供しています。

大学で得た知識を、地域に出て実践する。

知識と経験が共鳴してこそ、本物の実践力が身に付くのです。



Contents

- 01 | プロローグ
- 03 | 地域と、ともに。
- 09 | 企業と、ともに。
- 15 | 人と、ともに。
- 21 | 北方Campus Sketch
- 23 | 西之川Campus Sketch
- 25 | エピローグ



住民の生活を支える仕事の実際を知りたい。



自治体によって財政が異なるのはなぜだろう。

国の政策と地域課題の関係性とは。

地域と、ともに。

衣食住を支える商店街、安心・私たちが生活する地域は、どのよ地域に参加することにより、そ

「自治体財政研究会」へ、行く。

私たちの暮らしを支える自治体財政を紐解く。

私たちの生活は、自治体の行政活動の上に成り立っています。自治体職員の方々はどのように働き、そこにはどのような課題があるのでしょうか。地域連携協定のもと、地域の財政や政策を分析・調査し、自治体職員の方々と議論を重ね、その実態を紐解きます。



どうしたら大垣の魅力を発信できる？



商店街の空洞化は、なぜ起きているのだろう。

遠方からも集客するためには、何をしたらいい？

安全な暮らしを守る行政など、うに成り立っているのでしょうか。こにある課題も見えてきます。

「マイスター倶楽部」へ、行く。

商店街の活性化プロジェクトを推進する。

大学近くの大垣市商店街では、他の地域と同様に空洞化が問題となっています。どうすれば活性化できるのか。現場を調査し、学生ならではのアイデアと行動力によって、さまざまな「まちづくりプロジェクト」を展開しています。

Milestone
02
with Local
地域での
「学び」



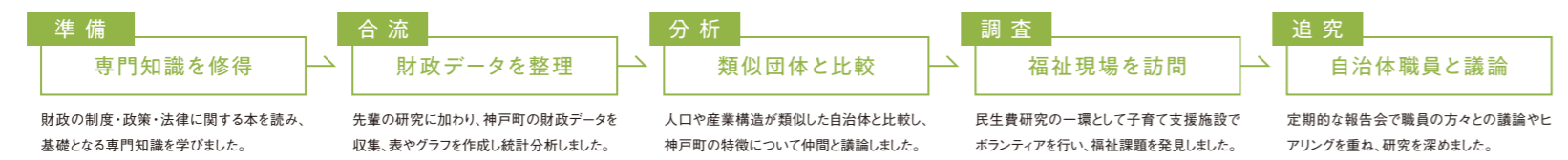
財政データを分析し、自治体職員と議論を重ねて地域課題を明らかにする。

2019年度から3年間、経済学部 の学生たちが神戸町役場の職員と共同で町財政の研究に取り組みました。先輩から知識と研究ノウハウを受け継ぎ、「ヒアリング→調査→比較・分析→報告・議論」の積み重ねを経て、財政構造の特徴と課題を報告書にまとめました。2022年度からは池田町の財政研究がスタートしています。



成長の
プロセス

研究を通して、論理力・分析力と的確な話し方を修得。



Milestone
03
with Local
地域での
「成長」

神戸町の財政分析では民生費を担当しました。そこで気づいたのは、子育てへの経済的支援が充実している一方で、お金では解決できない児童虐待問題などがあり、その対策として親同士がつながれる場所と機会の充実も大切ではないかということ。研究の一環で訪れたボランティア先でお母さんたちの悩みや不安を知り、先進的な自治体の取り組みを調査したことから、この考えに至りました。問題を防ぐ政策を通して、住民の方々の暮らしの向上に貢献できる行政職。勤務先の岐阜市役所では、今まで自分が地域の人に支えてもらった恩返しをしていきたいと思っています。

暮らしの悩みや不安に気づき、問題の予防に貢献できる行政職に。

経済学部 経済学科 2023年3月卒業
原綾 [岐阜県 岐阜城北高等学校出身]



Milestone
02
with Local
地域での
「学び」

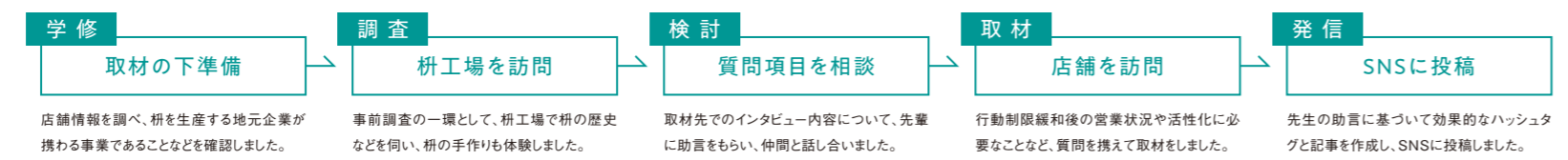


来店客を増やすために
商店街の飲食店を取材し、
その魅力をSNSで発信する。

「まちづくりプロジェクト」の一つとして、大垣市商店街にある飲食店の魅力をSNSで発信する「Enjoy!! Havingプロジェクト」が進行しています。メンバーの米倉さんは、大垣特産の枳(ます)をコンセプトにしたスイーツ店「masu cafe」(マスカフェ)を取材し発信。反響を調査し、より効果的な情報発信へとつなげます。

成長の
プロセス

プロジェクトで調査や取材を経験し、行動力もアップ!



店舗情報を調べ、枳を生産する地元企業が携わる事業であることなどを確認しました。

事前調査の一環として、枳工場で枳の歴史などを伺い、枳の手作りも体験しました。

取材先でのインタビュー内容について、先輩に助言をもらい、仲間と話し合いました。

行動制限緩和後の営業状況や活性化に必要なことなど、質問を携えて取材をしました。

先生の助言に基づいて効果的なハッシュタグと記事を作成し、SNSに投稿しました。

Milestone
03
with Local
地域での
「成長」



私は、生まれ育った大垣が大好き! だから、地域の人と一緒に大垣の活性化のために活動できるマイスター倶楽部にひかれました。商店街の問題に直面するなかでも「自分にできることがある」とわかったのは大きな成果です。取材したマスカフェは、器やインテリアに枳を多用したとてもユニークなお店。地元なのに枳が大垣の特産物と初めて知って反省し、事前学修の大切さを実感しました。多くの人においしいお店の情報を知ってもらい、「商店街いいよね」と日常会話にしてもらえたら。観光客にも来てもらえるよう、検索しやすい情報発信の仕方を追究します。

おいしさが伝わる情報を発信し、
大好きな大垣を輝かせたい。

経済学部 経済学科 3年
米倉 愛麗 [岐阜県 清凌高等学校出身]



人と関わる仕事で大切なことは何だろう。

働くことの厳しさもおもしろさも体験したい。

大学での学びを社会でどう生かしていくか。

企業と、ともに。

世の中にはどんな仕事があり、
大学生ながら現場に出て社
新しい世界を拓き、将来の

「共育型インターンシップ」へ、行く。

働く体験をして、未来の自分を見つける。

「地域を代表する企業」×「自治体」×「大学」の連携により、1年次から段階的に“社会で働く”体験を積みます。「ジョブシャドウイング」により仕事を理解し、「短期→海外短期→中長期」と段階的に仕事を体験。幅広い体験は必ず、就職活動の糧になります。



先進的な環境で自分のやりたいことを見つけたい。

アプリの開発にはどんな技術が必要なのだろう。

子どもにプログラミングを楽しんでもらうには。

どう役立っているのだろう。
会社人とともに働く経験は、
道へとつながるはずです。

「ソフトピア共同研究室」へ、行く。

企業や自治体との研究開発に挑戦する。

一大IT拠点のソフトピアジャパンセンター内にある「ソフトピア共同研究室」。ここは、企業や自治体と連携して研究開発を行う場です。学生たちは、大学の枠を超えて自分の可能性を広げ、創造的な活動に挑戦しています。

Milestone
02
with Company
企業での
「学び」



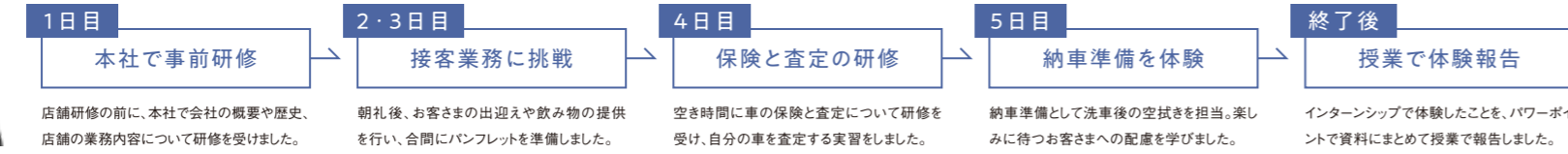
人と関わる仕事を
体験するために
自動車業界の最前線へ。

経営学部スポーツ経営学科の秋野さんは、「人と関わる仕事をしたい」と考えていたことから、インターンシップ先としてトヨタカラーネット岐阜(株)のネット真正店を志望しました。夏休みに5日間、接客業務を中心に体験。自動車業界の最前線で感じたのは、お客さまとの信頼関係を深めていける仕事の魅力でした。



成長の
プロセス

接客業務の合間に、保険・査定・納車準備も学ぶ。



Milestone
03
with Company
企業での
「成長」



ネット真正店では、毎日、お客さまのお出迎えを担当しました。社員の方と一緒に素早く駆け寄り、「いらっしゃいませ」「こんにちは」と元気よく声をかけます。「お店の雰囲気次第で購買意欲が変わるから」とあいさつの大切さを教わり、信頼獲得の基本として徹底されていると感じました。販売後も点検などを通して長くお付き合いでき、信頼を得ることで親子二代にわたり、ご家族みなとお付き合いできる。「他の業界にはない魅力」という言葉がこころに残っています。アルバイト先でも、お客さまを大切にすることがより強くなった自分を感じています。

“お出迎え”から学んだ
お客さまとの信頼関係の基本。

経営学部 スポーツ経営学科 4年
秋野森 翔也 [岐阜県 大垣工業高等学校出身]

Milestone
02
with Company
企業での
「学び」

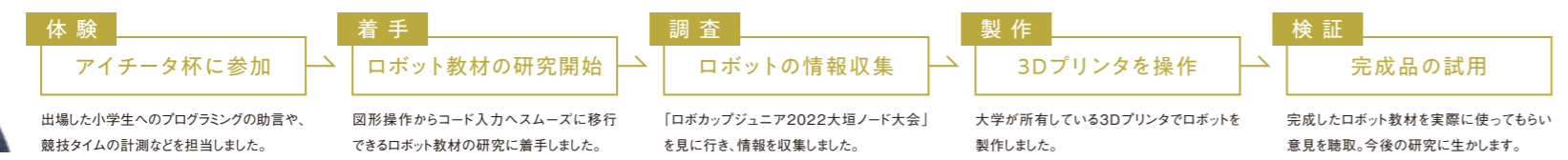


「アイチータ杯」の
サポート経験を生かし、
ロボット教材を開発。

「ソフトピア共同研究室」に所属する眞野さんは、愛知県主催・中京テレビ放送(株)運営のロボット技能競技大会「Junior Skills「アイチータ杯」」のサポートスタッフを2年連続で担当。運営側としての体験から多くを学ぶとともに、そこから着想を得て、子どものプログラミング修得を支援するロボット教材の開発という成果も生み出しています。



活動の場を広げつつ、ものづくりを満喫!



出場した小学生へのプログラミングの助言や、競技タイムの計測などを担当しました。

図形操作からコード入力へスムーズに移行できるロボット教材の研究に着手しました。

「ロボカップジュニア2022大垣ノード大会」を見に行き、情報を収集しました。

大学が所有している3Dプリンタでロボットを製作しました。

完成したロボット教材を実際に使ってもらい意見を聴取。今後の研究に生かします。

Milestone
03
with Company
企業での
「成長」



「アイチータ杯」のサポートスタッフを経験して良かったのは、小学生がどのようにプログラミングと関わっているかを実感できたことです。自分は文字を羅列するコード入力から始めたのですが、大会では低学年の子も簡単な図形操作でプログラムを組み立て、ロボット走行の調整を楽しんでいました。そこから考えたのが、図形操作でもコード入力でも動かせるロボットの開発。ロボットの動きをイメージできれば、図形からコードへの移行が楽になるからです。大会では、スムーズな進行や子どもが理解しやすい説明など、プロの運営すべてが勉強になりました。

子どもが楽しむイベントの中にも
ものづくりのヒントがある。

経営学部 情報メディア学科 3年
眞野 慎也 [愛知県 名古屋市立工業高等学校出身]



人との「気づき」

災害時の救急対応に必要な看護力とは。

患者役の実験から見えてくるのは何だろう。



地域のさまざまな医療現場を体験したい。

人と、ともに。

誰もがあらゆる場面で人と関わ
自分の能力を発揮することに
その思いを伸ばす体験

「医療ボランティア」へ、行く。

病院の集団救急模擬訓練に参加する。

保健・医療・福祉の現場で、医療従事者や地域の人々との関わりを通して体験的に学ぶ「医療ボランティア」。その一つ、大垣市民病院で行われる集団救急模擬訓練への参加は、災害時の救急対応を間近で学べる貴重な機会となっています。



人との「気づき」

スポーツの楽しさを子どもたちに伝えたい。

子どものころと体を理解した接し方とは。



り、人と助け合って生きています。
よって、人を笑顔にできたら。
が、ここには多くあります。

「おおがきっずスポーツスクール」へ、行く。

地域の小学生にスポーツを楽しんでもらう。

ゼミナール研究の一環として、大垣市体育連盟が主催する「おおがきっずスポーツスクール」の運営を学生が担当しています。小学生に運動の楽しさを体感してもらうことが目的。リアルな反応に刺激を受けながら指導力を磨いています。

Milestone
02
with People
人との
「学び」



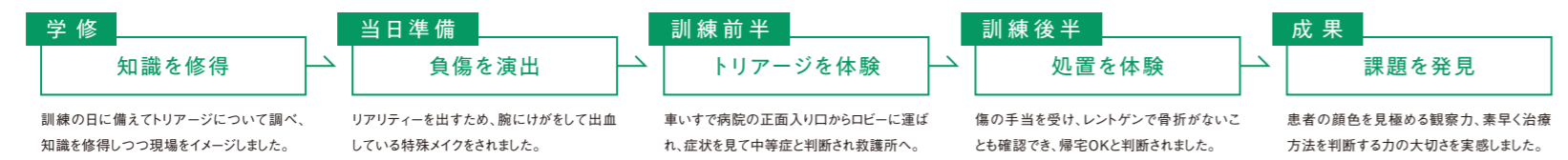
災害時、病院スタッフは
どんな働きをするのか。
トリアージ訓練を体験する。

地域災害拠点病院の大垣市民病院で行われた集団救急模擬訓練(トリアージ訓練)に、看護学部の学生たちが傷病者役として参加しました。医師や看護師が重症・中等症・軽症の判断を素早く下し、薬剤師・臨床検査技師・助産師を含む多職種の医療従事者が的確に対応する現場を体験。緊急時にも患者を安心させる声かけを忘れない姿勢も学びました。



成長の
プロセス

患者役を通して、緊急時の観察力・判断力の大切さを実感。



Milestone
03
with People
人との
「成長」



訓練では、災害からの避難途中でけがをした役を演じたあと、二つ目の役として呼吸困難の患者役も担当しました。ぜん息の持病があるけれど災害時の混乱で薬を吸入できていない、という設定でした。患者になりきり苦しさを訴えると、看護師さんたちが「ゆっくり吐いて〜」「大丈夫ですよ」とあたたかい言葉をかけてくれました。それは、私が幼い頃に入院して不安で一杯だったときの看護師さんの姿と重なります。そして、それは憧れではなく自分の将来像だと確信しました。患者さんに「あなたはひとりじゃないよ」という安心感と与えられる医療職をめざします。

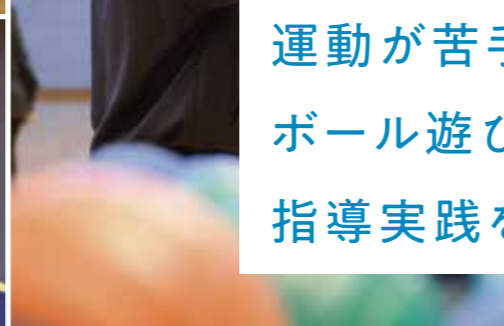
「ひとりじゃない」という安心感を
与えられる医療職をめざして。

看護学部 看護学科 3年
竹木 乙葉 [岐阜県 大垣桜高等学校出身]

Milestone
02
with People
人との
「学び」



運動が苦手でも楽しめる
ボール遊びとは？
指導実践を通して研究する。

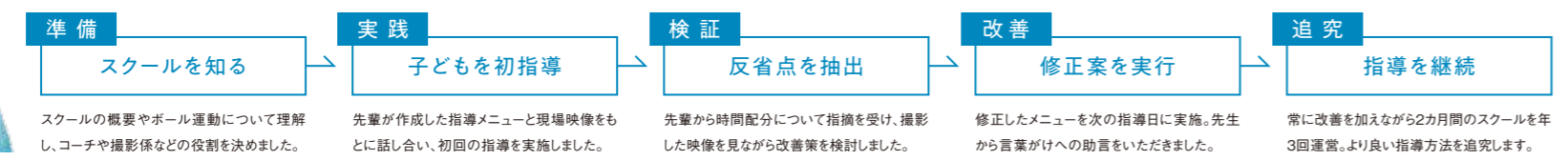


「おおがきっずスポーツスクール」の運営を担当しているのは、経営学部スポーツ経営学科の高橋正紀ゼミナールに所属する3・4年生です。1年を通して、2カ所の体育館で各40名の小学1・2年生に簡単なボール運動を指導。小さな成功体験を通してスポーツの楽しさを実感してもらえるよう、指導方法を研究しています。

成長の
プロセス



小学生が飽きずに楽しめる指導メニューを試行錯誤。



学校の概要やボール運動について理解し、コーチや撮影係などの役割を決めました。

先輩が作成した指導メニューと現場映像をもとに話し合い、初回の指導を実施しました。

先輩から時間配分について指摘を受け、撮影した映像を見ながら改善策を検討しました。

修正したメニューを次の指導日に実施。先生から言葉がけへの助言をいただきました。

常に改善を加えながら2カ月間のスクールを年3回運営。より良い指導方法を追究します。

Milestone
03
with People
人との
「成長」

子どもを指導していると、時には「楽しくない」と率直な言葉が返ってきます。ハッとさせられますが、改善策につながる貴重な反応です。小さな「できた!」をほめてあげて、叱るときにも「ダメ」ではなく「今日は○○ちゃんらしくないね」と、自己肯定感を持つような言葉を選んでいきます。興味深いのは、ボールの色が気に入らなくて投げようとしていない子などもあること。そんな微妙な心理を感じ取れるようになったのも、積極的に子どもと関わってきたからで、その経験は中学校での指導体験でも役立っています。保健体育科教員をめざして今後も研究を深めます。

保健体育科の教員として必要な
子どもへの伝え方・教え方を追究。

経営学部 スポーツ経営学科 4年
中川 昇 [石川県 大聖寺高等学校出身]



のどかな自然に
恵まれた水の都で、
穏やかに伸びる。

成長には、時間×養分が必要だ。

ゆったりとした時間の流れの中で

のびのびと過ごすことが、健やかな成長につながる。

キャンパスは栄養たっぷりの養分を含んだ土壌だ。

存分にそれを吸収して、めいっぱい成長すればいい。

Campus Sketch [北方キャンパス]

Ritayata Campus



水のせせらぎが聞こえる

緑に囲まれた中庭。

9:00

10:20



開放的なCOMMONスペースで

仲間とともに学び合う。

11:50



積み重ねられた知の中で

今日も新しいページをめくる。

13:40



広い教室の片隅から届く

成長へのまなざし。

17:10



大きな声が響くサッカーコート。

流した汗は、明日へとつながる。



15:30

心地よい風が吹くテラスでリフレッシュ。

変わりゆくものと
変わらないものを
調和させながら。

世の中はどんどん進歩している。
その一方で変わらないものもある。
生活様式や学び方は変わっても、
こころや身体やしぐみは変わらない。
最先端の今を生きながら、“人”について学ぼう。

Campus Sketch [西之川キャンパス]

*Wishinokawa
Campus*

やさしい光が照らす廊下。

今日も笑顔が行き交う。

9:30

10:30

現場さながらの実習室に
こころも引き締まる。

11:40

教室での一瞬一瞬が
たしかな力になっていく。

あたたかな光が差し込み

落ち着いた時間が流れる。

14:20

学びのこと、楽しみのこと

会話がはずむ学生サロン。

16:30

さあ、あなただけの未来へ。

仲間とともに学び、行動し続けると、気づくはず。

いつしか自分だけの道ができていることを。

そして、次に進みたい方向が見えてくることを。

歩み出せる力は、未来を変える。

人間の想像力は果てしない。

Gifu Ryoritsu University